

友達 同志

奨励	森田 喜基〔もりた・よしき〕
奨励者紹介	同志社大学キリスト教文化センター准教授 〔研究テーマ〕日本におけるキリスト教教育の歴史と実践

「もはや、わたしはあなたがたを^僕とは呼ばない。^僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

（ヨハネによる福音書 15章15—17節）

アメリカの日曜学校で

以前アメリカの日系人教会で働いていたことがあるのですが、その教会のある方が子どもたちのための教会、日曜学校でこのようなお話を子どもたちにしておられました。

二人の友達が暗い、暗い森の中を歩いていました。すると突然、大きな熊が二人の前に現れました。熊を見るやいなや、一人は一目散に逃げだして、木に登り、木陰に隠れました。もう一人は、というとそんなに早く走ることも、木に登ることもできません。そこで仕方なく、その場に横たわり、死んだふりをしました。熊が死んだふりをした人のそばに寄ってきて、クンクンにおい始めました。そして何かを耳元でささやいたように、木の上の一人には見えました。そのあと、熊は離れて森の奥に消えていきました。熊が去ったのち、木に登っていた一人は下りてきて、死んだふりをしていたもう一人に聞きました。「何か熊がささやかなかった？」

すると、死んだふりをしていたもう一人はこう答えました。確か英語でこのような内容だったと思います。

“The bear told me, to never again travel through the dark forest with a friend who runs away when trouble comes.”

日本語で言いますと「熊はね、こう言ったの。二度とトラブルの時に逃げ出すような友達とこんな暗い森を抜けようとしてはいけないよ」って。

その話を聞いていた子どもたちの顔がさっと青白くなったような気が私はしました。そして最後に聖書の言葉を引用されました。「どのようなときにも、友を愛すれば／苦難のときの兄弟が生まれる。」（箴言 17章17節）

私にとって、そのお話のインパクトはとても強いものでした。ですから「友達とは何か？」を考える時には、いつもこのお話を聞いた日のことを思い出します。

同志の結社、その目的

苦しい時、トラブルに見舞われた時に逃げるような人は友達、兄弟とはなりません。

本当に大変な時に、共に苦難に立ち向かってくれる人、また大変な時にこそ、傍に居続けてくれる人、それが友達というのだと、聖書を書いた古（いにしえ）の人々は私たちに伝えます。それを念頭に置くと、私に何人友達がいるでしょうか、と考えてしまいます。皆さんには何人友達がおられますか。

同志社の創立者は新島襄ですが、新島一人で同志社を設立できたわけではありません。いつも労苦を共にしてくれる友が新島にはいました。

同志社設立時に新島の友であった人を挙げれば、真っ先に思い浮かぶのは山本覚馬です。新島のお連れ合い、八重さんの兄である覚馬は、会津藩主、松平^{つる}容^{よう}保が江戸末期に京都守護職に任命された際に、会津藩士として京都に移り、そこで、明治新政府軍と旧幕府軍の戦い（戊辰戦争）に巻き込まれました。そして明治新政府軍に敗れて、捕らえられ、薩摩藩邸に幽閉されていました。その頃に、元々悪かった目が悪化して失明し、また歩行困難な体になっていました。しかし、開明的な思想家でもあった覚馬は、明治維新後、新政府の京都府知事の顧問になっていました。覚馬はアメリカン・ボードの宣教師、ゴードンからたくさん^のキリスト教に関する書物を手に入れ、親しんでいました。そのゴードンの紹介で新島は覚馬と出会い、その全面協力^で同志社が今出川の地に設立されるに至ったのです。今出川キャンパス、ここは旧薩摩藩邸跡です。なぜ薩摩藩に幽閉されていた覚馬がこの土地を持っていたのかはミステリーですが、「キリスト教の学校が京都に来るなどとてもない！」と当時の多くの人々が反対する中、1875年に同志社英学校が設立されました。

「同志社」は覚馬の命名だと言われていますが、「同志」という言葉は「志や主義・主張を同じくすること。また、その人。同じ目的を持つ仲間。」という意味です。幕末の志士達は、どのような立場であっても、同じ考えを持つ人が集まった場で、お互いを「同志」と呼び合っていたのです。同志社のカレッジソングも最初の言葉が「One purpose Doshisha」です。まさにここは志を、一つの目的を持つものが集う結社、同志社なのです。

では、その「同志社」の目的とするところは何かであったのでしょうか。それは、ここ京都にキリスト教主義の学校を設立する、そしてその事が日本の新しい未来を創ると確信し、その目的を同じくする同志、山本覚馬を得て、新島はもう一人の教師・宣教師デーヴィスと8人の生徒で同志社をスタートさせることができたのです。

新島の信仰

何かを成しえる人、すごいことをやっけるける人は、一人で何でもできるスーパーマンと言うよりは、一人の力ですべてをやろうとする人ではありません。自分の弱さを知っていて、自分だけでは何もできないことを知っているからこそ、威勢を張らず、人に「助けて！手伝って！」と言える人が、歴史をみると何かを成し遂げているように思います。

一八七九（明治十二）年、同志社英学校の第一回卒業式が行われ、十五名に卒業証書が授与されました。その卒業式の終わりに、新島襄は「Go, go, go in peace. Be strong! Mysterious Hand guide you!」と力強く叫んで卒業生の前途を祝福したと記しています。（『同志社百年史 通史編』1 1979年 111頁）「神の見えざる手があなたたちを導かんことを」。という意味になるでしょうか。新島は覚馬との出会い、様々な同志との出会いの中で生かされた人でした。そして同志社を設立するという大きな事業も、自分一人の力ではない、神様の見えざる御手に導かれ、与えてくれたこととして受け取っていたことでしょう。

新島のこの神様への確かな信仰は、新島の言葉の一つ一つに込められています。

友なるイエスは

先ほどお読みいただいた聖書で、イエス・キリストは2000年の時を超えて、私たちに語るのです。これを読む私たちのことを友と呼ぶと。イエスは当時、目の前にいたイエスの弟子たちに、そして今も聖書の読者に呼びかけます。「あなたがたを友達と呼ぶ。」と。「友達と呼びたい。」と。なぜなら「父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたから」と。イエスはこの後、十字架にかけられます。最もつらく、苦しく、みじめで、ひとりぼっちの体験をイエスご自身がされます。この時、イエスは自分自身に、これから襲い掛かる苦しい物語を、弟子たちに話されました。心の中で、最もしんどいことを話せるのは、本当に信頼している人以外にはありえないでしょう。イエスはその苦しみ^のうちを、弟子たちに友として話されたのです。私たちもまた、そのイエスの苦しみについて聖書を読むことによって、知ることができます。「この大切なことを話した、あなたがたをもう^僕と呼ぶことはなく、友と呼びたい」と、イエスは私たちにも語るのです。聖書を読み、イエスと出会うこと、それは言わばイエスから私たちへの、「友達申請」です。しかし、それはSNSの「友達申請」のような軽いものではありません。私たちが苦難の時、先に苦しまれたイエスが共にいてくださる、その思いをわかってくださるという申請です。もちろん、これは無視することもできます。慈しみふかい、友なるイエスを受け入れることもできます。受け入れた時、私たちが苦しむ時に、私たちはもう一人ではありません。イエスは共にいてくださいます。それは苦難の時に、一人だけ木に登って逃げるような関係ではないのです。苦難の時にこそ、共にいてくれる友達なのです。新島は常にこのような信仰に立って、自分の力ではなく、友である神様と、そして共にこの地上で働く同志と共にあった人でした。

十字架の縦と横の軸

キリスト教のシンボルに十字架があります。こんな^驚えがあります。十字架の横の軸は、私と周りの人との関係、今日のお話で言いますと、本当の友達、同志との関係です。そして縦の軸は、私とイエス様との関係なのだ。その一方がなくても十字架には、キリスト教にはならないのだというものです。新島はこの横の軸、本当の友達、同志を与えられ、そして常に縦の軸、神様への信仰をもってこの同志社を設立し、その成長のために祈りながら歩みました。

私たちは今、そのような学校に学び、働き、また集っています。神様がこの学び舎で本当の友達を、同志を与えてくださいますように。

そして「あなたがたを友と呼びたい！」という、友として共にいつもおられる神様の存在に思いを馳せながら、すべてを委ねて歩むことができますように。

祈り

私たちを友と呼んでくださる主・イエス・キリストの父なる神様

どうか苦難の時の友をお与えください。そして苦難の時あなたが共にいてくださることに委ねて、私たちが上を見上げて歩むことができますように。アーメン

2022年6月7日 同志社スピリット・ウィーク春学期

今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録